

A13 : 記憶

年	No	正解	解釈
5	13	b	all この問題は、全く個別の対立関係にある事柄を列記した問題で、bce は C21 の知能検査の中で、a は A11 条件付け学習で扱っています。
			d ○:1参照。宣言記憶と手続き記憶は対を成す用語です。
6	10	c	all 記憶の基本的な問題です。 ・×はcで、:再生よりも再認がしやすく、再認で学習の残存が認められなくても、再学習法で、その痕跡が確認できます。3-(1)参照。 ・ab は 2 参照 d は 3-(1)参照 e は 3-(2)を参照して下さい。干渉と抑制は同じです。
7	13	b	all これも、記憶の基本的な問題です。以下の個別の説明を参照してください。
			A ×:3-(1)参照。精緻化や体制化により、記憶は想起しやすくなります。
			B ×:4-(2)参照。部位によりますが、少なくとも最も有名な HM の症例では、全く逆になります。
			C ○:4-(1)参照。暗算を行うと、そのために短期記憶が使われる所以、親近効果は消失します。
			D ○:意味ネットワークが大きい程、反応時間が長くなります。
9	4	d	all 記憶の基本的な問題です。以下の個別の説明を参照してください。
			a ×:1参照。意味記憶ではなく、エピソード記憶です。
			b × 4-(1)参照。:これは親近効果のみであり、初頭効果が抜けています。
			c ×:4-(2)参照。プライミング効果は、先行刺激により後の学習効果が上がる効果です。
			d ○:カクテルパーティ効果は記憶の問題ではありませんが、ここで扱っています。パーティーのような雑踏の中で、特定の声だけを選択的に聞く事ができます。
			e ×:3-(2)参照。これは順向抑制(干渉)です。
12	22	d	all これは、B 以外は統計の内容で、E14 で扱います。
			B ○:3-(2)参照。記憶したときの状況が再現されると思い出すことを文脈依存効果といいます。
13	3	e	all この問題は、記憶というよりは知能の衰え(C21:3 参照)の問題ですが、用語が記憶の内容であり、ここで扱います。
			a ○:作業記憶(2参照)のような流動性の記憶の部分の衰えが激しいです。
			b ○:ほぼカバーできるかどうかは微妙ですが、記憶の意味ネットワークを豊かにして結晶性の記憶とすることで、いくらかは対応できます。
			c ○:遅くなります。
			d ○:これも、結晶性記憶の活用を言っています。
			e ×:流動性の記憶の訓練だけでは、記憶力の相対的な低下は避けられません。
19	4	e	all A:継時提示、B:プライミング効果、C:活性化 4-(2)参照。プライミング効果の説明です。4-(2)では、プライミング効果とは、「先行刺激により潜在記憶が形成され、後の学習効果が上がる効果」と説明しましたが、解説では、これは「直接プライミング」の説明で、「間接プライミング」を含めると「記憶内に、その単語と対応した概念が活性化される」という問題の説明の方が適切なようです。
19	5	a	all A:符号化、B:検索、C:再認、D:再生 1、3-(1)参照。記憶の基本的な知識の問題ですが、符号化、検索という情報科学の用語の方が使われています。